



アスペルガー症候群とシゾイドパーソナリティー障害 ——臨床的あるいは生物学的視点から考える——

コーディネーター 鹿島 晴雄

近年、広汎性発達障害として、知能の遅れにとどまらず、学習障害、注意障害など、より広く発達障害が捉えられるようになり、さらに知能の遅れない“高機能”とされる群もそれに含められ、発達障害の対象は広がってきている。また思春期以降に困難が生じることもあり、広汎性発達障害は児童精神医学にとどまらず精神医療全般においてきわめて重要なものとなっている。本シンポジウムでは、診断的にも治療的にもしばしば問題となる、アスペルガー症候群とシゾイドパーソナリティー障害について、臨床的および生物学的視点からご議論をいただいた。

シンポジウムではまず、自閉症スペクトラム、

アスペルガー症候群とスキゾイド、スキゾイドパーソナリティー障害との鑑別や重なり合いにつき、精神療法および児童精神科の専門家にお話しいただき、次いで生物学的視点から、アスペルガー症候群と統合失調症の脳画像所見と認知障害につき相違点が、またロールシャッハ所見に基づきアスペルガー症候群とスキゾイド、統合失調症の鑑別につき議論がなされた。アスペルガー症候群および関連の状態につき、精神療法、児童精神医学、生物学的精神医学の専門家が会し、多面的に活発な議論がなされ、興味深い有意義なシンポジウムが行えたと考えている。各シンポジストの方々に御礼申し上げます。

第102回日本精神神経学会総会=会期：平成18年5月11～13日、会場：福岡国際会議場

総会基本テーマ：ニーズの多様化と精神医学・医療の新たな展開

シンポジウム アスペルガー症候群とシゾイドパーソナリティー障害——臨床的あるいは生物学的視点から考える——
座長：鹿島 晴雄（慶應義塾大学医学部精神神経科学教室）、狩野 力八郎（東京国際大学大学院臨床心理学研究科）